

# 渡島管内における醸造用ぶどう栽培の安定生産と定着 令和5～6年度

【渡島管内の醸造用ぶどう栽培者（北斗市、函館市、七飯町他）】

（広域専門）

## 1 課題の背景

- ◎農業生産法人や新規参入者による醸造用ぶどう栽培が急激に増加し、大手企業をのぞいた生産者の多くは、有機に準じた栽培を志向している。
- ◎函館市や北斗市はワインによる地域振興を進めおり連携して地域の活性化を推進する。
- そこで、渡島管内(函館周辺)での安定生産と醸造用ぶどう栽培の定着を図るため、函館周辺地域の気候に合わせた栽培と病虫害防除技術の確立が必要である。

## 2 活動内容

### 推進事項：有機栽培に準じた防除による安定生産

令和5年度の主な活動内容

時期	活動方法	活動内容	出席者
9月13日	現地研修会	生育状況、病虫害防除	16人
11月8日	現地研修会	病害について勉強会	15
2月28日	栽培講習会	問題になった病虫害と対策	13
5～10月	調査・巡回	生育状況、病虫害の発生状況調査	

- ・振興局商工労働観光課との連携：道南ワインアカデミーの行事として開催
- ・北斗市ワインによる地域活性化検討会との連携(予察調査)
- ・道南農業試験場との連携(病虫害の発生生態の解明と防除法)



現地研修会(9/13)  
視察園地で情報交換

## 3 活動成果

### ★植付け5年以内栽培者の収量向上

(現況：100 kg/10a → 目標：200 kg → 実績：170 kg)

令和5年は、病虫害(黒とう病、アカガネサルハムシ等)が多発、更には鳥害の被害により大きく減収した園地も見られ目標の収量達成にはいたらなかった。

特に、有機に準じた栽培では、①防除技術が確立されていない、②散布水量不足による散布ムラ、③園地での菌密度、越冬虫数の増加が問題となった。

道南ワインアカデミーの現地研修会や栽培講習会等への出席率が高く、収量向上に向けた病虫害防除への関心の高さが伺われた。また、生産者間の情報交換も積極的に行われており、次年度に向けた改善意欲が高い。



道南ワインアカデミー生産者  
向け栽培講習会(2/28)

## 4 今後に向けて

次年度も継続して醸造用ぶどうの安定生産に向け活動を行う。